

君津地域水稲情報 「あぜみち第2報」

平成 27 年 6 月 4 日 君津農業事務所 改良普及課

電話 0438-23-0299 FAX 0438-23-6698

ホームページ <http://www.pref.chiba.lg.jp/ap-kimitsu/>

★ 過去に例のない早さで生育が進む ★ 「ふさおとめ」の幼穂形成期は 6 月 12 日頃から

1 君津地域の生育概況

移植時期から続く高温多照のため、平年よりも葉令の進みが早く、茎数がかかなり多くなっています。また、草丈もかなり高く、全体的に旺盛な生育です。

4 月 20 日植えの「ふさおとめ」「ふさこがね」「コシヒカリ」の生育は、過去に例のない早さで進んでいます。そのため、昨年よりも早く幼穂形成期（幼穂長 1mm）に入る見込みです。また、5 月 10 日植えのほ場では、台風による強風の影響から一時的な生育停滞が見られましたが、生育は回復傾向です。中干しは幼穂形成期に入ったら終了し、その後も各品種の生育ステージに合わせた適切な管理を心掛けましょう。

2 生育調査ほの調査結果（6 月 1 日）

品種	年	田植え日	葉令	草丈(cm)	茎数(/株)	茎数(/㎡)	単葉葉色
ふさおとめ (袖ヶ浦市)	27	4/16	10.8	49.3	45.5	682.5	44.4
	平年	4/16	9.1	34.6	26.6	398.4	46.2
	平年比	±0	+1.7	+14.7	+18.9	+284.1	-1.8
ふさこがね (君津市)	27	4/21	9.3	44.4	37.4	706.9	44.3
	平年	4/19	8.3	30.6	24.7	474.0	44.5
	平年比	+2	+1.0	+13.8	+12.7	+232.9	-0.2
コシヒカリ (君津市)	27	4/22	10.0	43.5	37.7	738.9	40.8
	平年	4/20	8.1	38.4	28.0	527.0	41.8
	平年比	+2	+1.9	+5.1	+9.7	+211.9	-1.0
コシヒカリ (一発肥料) (富津市)	27	4/19	8.7	48.3	38.2	623.1	41.5
	平年	4/21	7.7	37.0	22.6	405.8	41.7
	平年比	-2	+1.0	+11.3	+15.6	+217.3	-0.2
コシヒカリ (木更津市)	27	5/8	5.8	31.9	12.1	208.1	36.5
	昨年	4/27	8.2	33.4	20.5	433	39.5
コシヒカリ (一発肥料) (君津市)	27	5/8	7.4	29.8	19.3	314.6	41.0
	昨年	5/5	7.0	32.5	14.8	237	28.7

※平年値は過去 5 年（2010～2014 年）平均値。ただし、木更津市のほ場は 26 年から、また君津市のコシヒカリ一発肥料のほ場は 25 年から調査を始めたため、平年値はなし。

3 これからの管理のポイント

① 「ふさおとめ」「ふさこがね」の幼穂形成期の予測

品種	植付時期	幼穂形成期予測 ※	穂肥適期の目安	冷害危険期予測
ふさおとめ	4月20日	6月12日	6月19日	6月22日～
ふさこがね	4月20日	6月14日	6月21日	6月24日～

※君津地域内で最も早い予測日を記載

② 「ふさおとめ」「ふさこがね」の穂肥

幼穂形成期から約1週間後には幼穂長が10mmとなり、穂肥の施用適期になりますので、幼穂長を確認しましょう。「ふさおとめ」「ふさこがね」の穂肥は下表を参考にしましょう。生育が適正範囲内であれば、「ふさおとめ」は幼穂長1mm～10mmの時（幼穂形成期～出穂18日前）、「ふさこがね」は幼穂長10mmの時（出穂18日前）にチッソ成分で3kg/10aを標準に施用します。

生育が過繁茂となっている場合は、「ふさおとめ」では施用時期は遅らせずに、量を減らして施用します。穂肥が遅れると玄米に含まれるタンパク質が増えて食味が悪くなる傾向がありますので、幼穂長を確認して、必ず適期に施用するようにしてください。

なお、「ふさこがね」の穂肥施用時の適正な葉色は他の品種に比べて濃いのが特徴で、カラースケール等で葉色を確認して、適正な葉色であれば穂肥を基準どおりに施用します。

幼穂形成期（出穂25日前・幼穂長1mm）の目標とする水稻の姿

品種	草丈 cm	茎数 本/株 (坪60株植)	茎数 本/m ²	群落葉色 ※
ふさおとめ	55以下	31～34	570～620	4.0
ふさこがね	60～65以下	25～27	450～500	5.0
コシヒカリ	70以下	23～30	430～560	3.5～4.0

※カラースケール値による。

② イネクロカメムシの防除

イネクロカメムシは君津市小系地区～富津市を中心に、近年、発生・被害が増えています。普通のカメムシと違って斑点米を作ることはありませんが、水稻の茎を吸汁します。吸汁されると茎数が減少したり、不稔籾が増加したりするほか、白穂の発生原因にもなります。

雑草地や落葉の下などで越冬した成虫が5月中旬～6月に水田に飛来し、6月下旬には卵を産んで増えます。幼虫が発生する頃には株が大きくなり、動力噴霧器や無人ヘリ等の薬剤がかかりにくくなるため、防除は成虫が飛来する今が効果的です。田の畦際から発生するので、その周辺の株元を良く見回り、発生していたら早めに防除しましょう。

【主な防除薬剤】

ｽｰｸﾙ粒剤、ｽｰｸﾙ豆つぶ、ILｶﾝ粉剤2、ILｶﾝ乳剤、ｽﾐﾁｶﾝ粉剤3DL、ｽﾐﾁｶﾝ乳剤

③ 紋枯病に注意！

今年は茎数が多い傾向であるため、紋枯病の発生が懸念されます。紋枯病は30℃前後の気温と多湿条件で発病し、葉しょうの枯れ上がりによってイネは倒伏しやすくなります。常発田や茎数の多い水田では予防散布（粒剤は出穂20日前頃、粉剤は出穂15日前頃が目安）を行いましょう。

【主な防除薬剤】

ﾓﾝｶｯﾄ粒剤、ﾌﾞﾗﾝｸﾞﾓﾝｶｯﾄ粒剤、ﾓﾝｶﾞﾘｯﾄ粒剤、ﾉﾌﾞﾗｽﾊﾞﾘﾀﾞ粉剤DL

※ 次号は「6月19日頃」発行予定